

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

2班 氏名 舟本 淳子

先進地視察研修と言う事で、岐阜県郡上市・愛知県一宮市で7ヶ所の視察に行き感じたことは、それぞれの地域や施設で町の活性化のために努力していると、強く感じました。

視察先 1. 郡上市役所 建設部都市住宅課の方より郡上八幡市街地におけるまちづくりとして「水辺空間を活かしたまちづくり」「歴史的水路の保存」「郡上八幡市街地におけるまちなみづくり」の3点について話しを伺いました。八幡町は非常に雨が深い地域であり町の中央を流れる吉田川を境に北町、南町地区に分かれていて非常に広大な90%が森林である町だとの事です。町の中のオアシスとして「水が結ぶポケットパーク」を設置するなど湧き水を利用した水辺の空間作りは感心しました。「まちなみづくり」や「歴史的水路の保存」に町民と行政が上手く関わり合い互いにより良いまちづくりに協力しあっていると感じました。続いて商工観光課の方より国重要無形民俗文化財である「郡上おどり」について伺いました。毎年34万人の人出があり徹夜おどりの4日間は、市職員の41%が動員し行なうとの事で、縁日おどりの28日間は地元の自治会のボランティアで警備をされているそうです。

視察先 2. 郡上八幡のまちなみ 観光ボランティアの方により案内をして頂き、しとしと雨の降る中情緒ある景観を楽しみました。江戸時代の大火の教訓からか今でも各家の軒下には、ブリキのバケツが下げられていました。

「郡上八幡会館」では、案内人のダジャレが愉快でした。

視察先 3. 榊明宝レディース 明宝レディースの歩みやトマトケチャップが出来るまでの話を女性社長の本川さんに説明頂きました。まずは社員全員が女性で、設立以来「手づくり」で商品を作り続けておられるとの事です。工場を見学させて頂きました。4つの大変大きな釜で特注の木べらを使い、焦げないように釜の底をずっと回しておられました。隣の部屋ではビンにシールを張りキャップに紙をかぶせたり等、全て手作業でした。B級品のトマトを無駄にすることなくケチャップにするアイデアは女性ならではの考えではないでしょうか。お客様をもてなしたいという思いから、真心込めて手づくりされたトマトケチャップは懐かしい母の味がすると思います。

視察先 4. 道の駅 明宝 指定管理者の榊明宝マスターズの方に話を伺いました。やはり話の中で感じたのは特産品があると強いという事です。それにマスコミを利用すると集客力アップになると言っておられました。販売員の方

にお話を聞きましたが一年を通じて暇だと感じる時期は殆んどなく、これから12月に入るとお歳暮の発送で忙しいとの事でした。

視察先 5. 138タワー 指定管理者の木曾三川公園管理センターの方より「ツインアーチ 138」について伺いました。‘タワーを活かしたまちづくり’の取り組みとしては季節ごとに行なうイベント内容に思考を凝らし、変化に富んだテーマを掲げ利用者やタワーの入館者の確保、利用促進に努めておられるとの事です。タワー内の見学をし、今はクリスマスイベントでツインアーチのメリークリスマスと題し入口からタワー内外に数多くのイルミネーションが飾りつけられてありました。きっと夜だったら色鮮やかなイルミネーションが楽しめたと少し残念でした。印象的だったのはタワー入口にある薔薇の花で作られた特大のアーチが可愛らしかったです。展望台にはさまざまなクリスマスらしい飾りつけがされていて若い人や子供たちには人気だとの事でした。東海北陸道を通して太平洋側のツインアーチ 138、日本海側のクロスランドタワーで何か楽しいイベントが出来たらいいと思いました。明日の天気予報の提供をライトアップで行なうのも素敵だと思いました。

視察先 6. クックラひるがの (株)アーカイブス社長より話を伺いました。施設整備に至った経緯など「アーカイブス計画」の内容はたいへん分かりやすい説明でした。一番印象に残ったのは‘物と情報のあふれる地域づくり’を目指し地域の情報発信の場としてこの施設を充分活用したいということ、そして将来的には地元の企業家育成の為の場所提供、資金面でのバックアップを図りたいという思いが充分感じられました。

視察先 7. ひるがの高原「牧歌の里」 農業と観光の効果的な連携による地域資源の活用により新しい地域産業起こしの拠点づくりとして施設整備に至ったとの事でした。施設の特徴としては子供は動物と遊べ、大人は季節ごとの花を楽しんだりパンやピザ作り体験などもでき結婚式が出来るチャペルも併設されていました。高齢者には温泉施設も完備されていました。最近では台湾からの来場者が増加しているそうです。目標年間来場者数は30万人を目指しているとの事です。

とにかく視察研修は私にとって収穫が多く実りある2日間でした。有難うございました。視察を受け入れて頂いた皆様には深く感謝しております。何か一つでも「まち研」委員として、実現したいと強く思いました。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

1班	氏名	北 喜樹
----	----	------

先進地視察について

今回の先進地視察については、岐阜県郡上市における「地域の生き残り策」について学ぶ機会をいただきました。

郡上市については、観光の目玉となる「盆踊り」があり、キャパを超える観光客が訪れるとのことでしたが、市内を見渡す限り、工場やショッピングセンターなどは見あたらず、どのような雇用があって経済が成り立っているのかと人ごとながら不安になりました。

市内の散策では、外の観光客と行き交うこともほとんど無く、実に閑散としていましたが、それでも観光産業で成り立つのかと思うと、いかにシーズン中の客入りが大きいことかと驚きます。

さて、この観光客はなぜ郡上市にくるのかと考えますと、やはり、都会の人々が持つ郡上市のイメージにあると思います。

古い街並みは閑散ではなく閑静でなり、盆踊りは住民になりきれぬ疑似体験となっているのかな、と思います。

また、飛騨牛に代表されるように、酪農のイメージが強く、「肉や乳製品を作っているところ」として「手作りおいしい」そんなイメージが強くあります。（私だけでしょうか？）

そのため、田舎の手作りブランドになっており、それらを食べる為に観光客が訪れるのだろうと思います。

視察先にて特に強く感じたことは、住民の盛り上がり、関係者の志の高さが大切。

明宝レディースのような企業ありきではない活動が小矢部市にもあるはず。（思いつくものであれば、野菊の会のニシンこんか漬け。など）

なによりも、小矢部市のイメージづくりが大切であり、官と多くの民による連携プレーの方策を、今後検討していければいいのではないのでしょうか。

以上

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

2	班	氏	名	柴	田	拓	弥
---	---	---	---	---	---	---	---

今回の視察研修は、関心することも多かったし学ぶことも、是非小矢部市にも取り入れてけば良いなと思うことがたくさんありました。

郡上市役所では、郡上市についてお話を伺ったのですが私が印象に残っているのが、郡上市では町並みを守るために6つのルールがあるそうです。（下記参照下さい。）昼食前に郡上市内を巡る時間があったのですが、どの家庭もしっかりとルールが守られており市民も協力的で大変素晴らしい市だ！と思いました。でも、やはりただ守っているのではなく郡上市では何かを決めるときは町の皆で話し合い決めるようにしているという事も伺いました。こうする事により、何を行うにしても市民皆が納得し行えるのだろうなと思います。小矢部市も何かの形でもっと市民の意見を取り入れたり話し合う機会を作っていければ良いのではないかと考えました。

郡上市のルール？

- ①建物の高さ 山の美しい景色を隠さないため
- ②壁面の位置 路面の位置にあわせ見栄えを良くする。
- ③建物の意匠 1Fは個性的に（店などがあるから）2Fは伝統的に。
- ④色彩 町並みをいかした色にする。
- ⑤看板の設置 突き出さないようにする。
- ⑥設備・機械類 目立たないようにする。（園芸で隠したり）

㈱明宝レディースでは、食用で販売できないトマトを使用しトマトケチャップを販売し成功？されるまでの話を伺いました。今、2班では小矢部市の特産となる物を作りたい！というように話が進んでますが、考え方として大変参考になる部分が多く今後の活動に生かしていきたいです。

138タワーパークでは冬季素晴らしいイルミネーションを行っているらしく、是非クロスランドに取り入れてほしいなと思うこともたくさんありました。しかし、実際の所は予算的な部分を伺ったりしたら小矢部で行うには厳しいのかもしれないですがまち研の力で少しずつでも取り入れることが出来れば良いです。

今回の視察研修では未来の小矢部市に役立つ情報をたくさん学ぶことが出来たと思うので今後の活動にいかしていきたいです。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

1 班	氏 名	竹 瀧 雅 恵
-----	-----	---------

視察研修全体を通じ、視察先関係者に共通して、それぞれの地域の長所短所を踏まえたうえで、地域の力を活かそうと取り組んでいる熱意を感じました。また、それぞれ地域を捉える見方が様々であり、自分が小矢部市を考えるにあたって硬い頭になりつつあるところを、“目から鱗”で新しい見方も発見でき、とても有意義な視察研修になったと思います。

いくつか、印象に残った視察先と学んだことを以下のとおり報告いたします。

◆道の駅 明宝（明宝磨墨の里公園）

東海北陸自動車道の影響で、道の駅周辺への交通量が減少している。平成10年度と比較すると約40%程度の交通量となっており、道の駅での収益の資料提示はなかったものの、減収であろうと想像できた。しかし、関係者の話を聞くと、さほどの減収でもない様子であった。“明宝ハム”や“明宝ケチャップ”など、全国的に有名な明宝地域の特産品があることによって、道の駅での収益が確保されていると思われた。このことにより、特産品として一つのブランド化されている商品がないと、道の駅での増益は難しいと感じた。やはり、今盛んに言っている『小矢部ブランド』が必要になってくるだろう。

今後は地域活性のために、地域のブランド化は重要課題と思われる。明宝ハムは東海地域の一部報道に取り上げられたことや、明宝ケチャップがTVの料理番組で紹介されたこと等、マスメディアによって全国的に宣伝できたことが、認知されるきっかけとなっていた。TV報道も地方版だけでなく、北陸・中部・全国と、広い地域でのPRが必要と考える。良いものを作っている、周知されなくては意味が無く、宣伝の方法も地域ブランド化の中で一体的に考えるべき事項だと思った。

◆ツインタワー138

国営公園の一角にあることから、規模や予算等も大きく、冬期イルミネーションの費用も数千万円という額であった。タワー周辺の公園のデザインを見ていて素敵だと思ったが、経費を聞いて、クロスランドでは難しい規模と思うしかなかった。

しかし、イルミネーションは無理だとしても、いくつか面白いアイデアがあった。まずは、タワーから紙飛行機を飛ばす企画。紙の横にはペンが用意されていたり、雨に溶けて土に返る紙を使用したりと、工夫がされていた。子供達が喜ぶ企画ではないかと思った。この他に、展望階で『天使のクリスマスステージ』という市内幼稚園等の児童による演奏発表など実施していた。児童が出演するとなれば、保護者も必然的に巻き込むことが可能なので、こういった企画は来館者を増やす意味でも、市民がクロスランドタワーに親しみを持ってもらう意味でも、良いのではないかと思った。

◆クックラひるがの

東海北陸道ひるがの高原SAやスマートICに隣接し、自動車道の中間地点という立地条件から『物と情報のあふれる地域づくり』をコンセプトにしている施設。富山県～岐阜県～愛知県の自動車道沿線地域の特産物等を集合させて販売する考え方には、本当に驚いた。地元ブランドが重要と思っていたが、ブランド化しなくても、地域の特性をうまく利用していると思う。岐阜の山奥なのに、氷見の魚が堂々と並んでいる姿には、本当にビックリした。富山県人にすれば、「岐阜まで来て、氷見の魚?!」と思ったが、岐阜・愛知からやって来た人には、嬉しいことなのかもしれない。

これは、小矢部市にも言えることだと感じた。富山県の端である小矢部市は、富山の入口であり出口でもある。道の駅を例にすると、小矢部市だけでなく富山県の情報を発信する場所と考えれば、富山県内の特産物が並んでいても不思議ではない。国道8号線から石川県に移動する人達にとっては、富山県の物が購入できる最後の場所だし、富山県に入ってきた人達にとっては、富山県に触れる最初の場所である。この小矢部市にしかない特性を活かせる方法がないかと、今後考えてみたくなった。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

2班	氏名	田地 春香
----	----	-------

①郡上市役所

建設部の方からは「郡上八幡市街地におけるまちなみづくり」を、商工観光部の方からは「郡上おどりを生かしたまちづくり」を聞いた。郡上市は平成16年3月に7町村が合併して誕生した市であり、豊かな自然に恵まれた広大な市域を有しており、それぞれの地域（旧町村）ごとに特色がある市であるとのことだった。まちづくりでは、観光を主においてハード面でもソフト面でもそれを支援した形で行っているようだった。この説明を受けた時は単に様々な多方面での事業を行っているという印象が強かったが、のちに現地を足でまわった時にはこれだけ地域ごとにあく強い特色をまとめて、さらに売り出していく努力は並大抵のことではないと感じた。また、説明をしている職員の方々が、郡上市のことを内外の両方から見ただけできちんと説明しておいでことに、あたりまえのことかもしれないが驚き、見習わなくてはいけないと思った。

②郡上八幡のまちなみ

豊かな自然を、観光の街としての景観を損なわないような形で整備されたまち並みが、とても趣き深くて観光者としては「いいな」と思った。景観形成事業により、単に水路があるだけだった街を見栄えがよいように整備したということだったが、実際に市街地を歩いてみたところ空き家もあって歯抜けのような所もあり、また個人の家においては車の駐車スペースが確保しづらいような印象もあり、整備した後のまち並みを維持していく難しさ、困難さが垣間見えたと感じた。行政がハード面ソフト面でいくら支援しても、保存しておきたいまち並みというのはそこに住む住民の献身的な努力と協力が必要なのだと感じた。

③(株)明宝レディース

普通のおばちゃん達が仲良しグループで始めたことが、様々な経緯を経て表彰されるほどの大事業にまで拡大したという、一見成功物語のように輝かしく感じられる場所だった。しかし、後継者の育成が進まないことや、営業職の人材がいないため市場を拡大しづらい現状にあること、商品ひとつにおいても素人が試行錯誤して一から作り上げていく苦労などが垣間見え、ノウハウのない中から全て一から作り上げていくことの難しさを感じた。また、説明をしてくださった社長がぼつりと「何度もやめようと思ったが、困難にぶつかっても諦めずにいてここまで来た」とおっしゃったことがとても印象に残った。あとになってから、その困難とはどんなことだったのか、どういう風にして乗り越えてきたのか聞いておけばよかったと思った。

④道の駅 明宝

当時、明宝村が村おこしとしておこなった一大事業としての道の駅であるとのこと。様々な地域の特産品を販売している地産地消の元として、明宝地域の情報を伝える観光施設として「全国道の駅グランプリ2000」において優秀賞を受賞したという実績もあり、黒字経営を行っているとのことと成功しているようだった。今まではスキー客などの中継地点としてにぎわっていたが、東海北陸道開通の影響により若干客足が遠のいてきているとのことと、道ひとつのことではあるが、プラスに影響があるところもあればマイナスに影響があるところもあるのだなと思わされた。また、これから冬にかけてどうしても店頭に出す商品数が減少することについて、干物や漬け物を中心としていくが、どうしても商品がない場合は地元産ではなくても店頭と並べなくて常に客足を途絶えさせないようにしなければいけないと話してくださり、今度小矢部市に作られる道の駅では果たして年中客足を途絶えさせないようにする魅力を創り出すことができるのかどうか、少し疑問に思った。

○宿泊先のホテル八幡にて

郡上踊りを体験でき、さらに免許をいただき、とても嬉しかった。踊りは一種のスポーツだと思った。

⑤138タワー

クロスランドと比較しながら見学をしていた。まずクロスランドと違うのは、財源がきちんと確保されているところだと思った。時期がクリスマスシーズンということもあり、恋人たちへのアピール度が高いイルミネーションや飾りつけとなっており、見学するだけでもウキウキとしてしまうような展示方法となっていた。国営公園の中にあるということだったが、単に公園利用者のためのオブジェとしてだけではなくタワーに登ってもらうために様々なイベントをタワー内で行うということを知り、さらに実際にタワーの中で願い事のツリーや紙飛行機飛ばしなどを実践してみて、お金がかかることだけではない細かな点でも工夫が凝らしてあるのを見て、見習う点も多くあるなと思った。

⑥クックラひるがの

まだ建設途中のスマートインターということで、まだ集客をするための改良が必要な場所だと思った。見晴らしはとてよく澄んだ空気の素敵な場所だとは思いますが、日本においてノルウェーの妖精などがイメージキャラクターとして存在している点はとてもチグハグな印象を受けた。けれども説明をしてくださった社長さんの「起業家を育てるための場所としたい」という心には感銘を受けた。

⑦ひるがの高原「牧歌の里」

繁盛期にはあふれるほどのお客さんが集まってもさらに経営はそんなに楽ではないということを知り、大型な施設運営の難しさを感じた。雇用の需要と供給にミスマッチが生じているため派遣に頼らなければいけない現状や、ある程度集客時期に限られてくる中で継続的に集客するために新たな客層を開発することの必要性などを話していただき、普段聞けないような話をきかせていただき、とてもためになった。

1泊2日という限られた時間の中でとてもたくさんの場所を視察させてもらったが、どこでも出ていた話題が「営業の難しさ」だった。物をつくる、場所を提供する、どんな形であってもそこに人を集める場合は、魅力をアピールする方法が鍵となってくるようだ。私の属している2班では、小矢部ブランドの商品開発を主軸に小矢部市を上手にアピールしていくことが議論の中心となっており、課題であり目標である。今回の視察研修で見聞きしてきたことを、その議論の中でうまく生かしていきたいと思った。

視察研修に参加させていただき、ありがとうございました。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

2 班	氏 名	船見 幸広
-----	-----	-------

今回の先進地視察研修では、どの視察先でも「まちづくり」につながる多くのヒントを得ることができた。しかし、それを我がまち「小矢部市」に採用した場合、果たして同じような効果を期待できるのか考え込んでしまった。

郡上市では町並み環境整備と「郡上おどり」について説明をうけた。「水辺空間を活かしたまちづくり」は地域住民の熱意によって、官民一体となって推し進められた。当然、整備には多大な費用がかかったであろうし、これからの維持管理には大変な労力を必要とするであろう。しかし、そのようなまちづくりを進めた結果、地元の憩いの場として活用され、さらに多くの観光客を呼び込む目玉となったのである。もともと水のまちとして知られていただけに、近年高まりつつある「癒し」と「エコロジー」との相乗効果により、観光の役を担うようになったものと思われる。先見性の高い投資であったと思われる。

今夏に郡上市を訪れた際、多くの観光客でにぎわっており、目当てのそば屋は長蛇の列ができていた。町の路地の至る所に人がいて、皆それぞれに町並み観光を楽しんでいた。今回、町並みを案内してもらった際に気づいた点がいくつかあった。所々にちょっと立ち寄れるショップがあるということである。五平餅やみたらしだんごを売っている店、新酒を試飲できる酒屋、そして小さなギャラリーが点在していて、なんとなく購買意欲をくすぐられる思いがした。案内看板も市内各所に設置されていた。もともと「郡上おどり」で多くの観光客が訪れるため、駐車場やトイレなど、観光客を受け入れる体制づくりがきちんとなされているのであろう。小矢部市も観光に値する史跡・名所はたくさんあるが、十分な案内（パンフレット・看板の整備）がされていないなど、観光客への配慮が足りず、せっかく訪れても印象に残りにくい感じがする。

また「郡上おどり」には祭りそのものに人を惹きつける要素が含まれている。「郡上おどり」のような参加型の祭りは主催者と観光客が一体となって祭りを盛り上げることができるので、リピーターも多いであろうし、全国的に報道され、雑誌等でも紹介されることから、新規開拓（観光PR）のチャンスが見込まれる。小矢部市でも「曳山祭」「獅子舞祭」「夜高あんどん祭」など、魅力的な祭りは多い。しかし、どちらかという地域の中で培ってきた祭りであるがゆえに、いわゆる「見せる」祭りである。その場合、いかに見せるか、いかにPRするかを考慮しないと、「地元の祭り」だけで終わってしまう。現在、小矢部市では「火牛まつり」が参加型イベントとして定着しつつあり、年々活気を増してきていると思われる。しかし、伝統に裏打ちされたものがなく、その上、レース主体だと住民と見物客が一体になる機会が少ないので、今後の展開に一考を要すると思われる。

マイナス思考ではいけないが、今回の研修中、ずっと「小矢部市の場合・・・」といった考えが頭の中を占めていた。それに対する自分なりの明確な答えは今現在も見つからない。

しかしながら、今回の研修の中で、特に感銘をうけたのは「クックラひるがの」での話である。「地域の活性化」は「人づくり」であるということ。「人づくり」は「人材の育成」という意味合いが強いが、「ネットワークづくり」も大切だということを学んだ。どれだけいい企画を持っていても、それを実行するには一人では遂行できない。みんなで議論し、同じ目標に向かって進んでいくこと。成功者の足を引っ張るのではなく、みんなで同じテーブルに座り、いろんな意見を出し合い、地域と交わり、じっくりと腰をすえて取り組むことが必要であると思われる。また、楽しく継続することが大切であり、さらに情報発信の必要性も教わった。

我が2班では「食」をテーマに商品のブランド化を検討している。考えるだけでは意味がない。一期生からはテーマについて深く掘り下げて調査・研究し、実行することが大切だと教わった。しかし、「食」だけでは一過性に終わってしまう可能性が高い。高岡市のコロツケや氷見市のカレーなど、同じように「食」に力を入れているまちがあるだけに、二番煎じでは意味がない。今一度、小矢部の歴史・伝統・文化を見直し、そのうえで小矢部市の背丈に合った観光戦略を練り、ブランド化を図る必要がある。

二期生としての任期もすでに1/4ほど過ぎてしまった。これからは、今回の研修で教わったことを参考に、小矢部の潜在能力を掘り起こし、今あるものを有効に利用し、何らかの「仕掛け」を織り交ぜつつ、結果を出していきたいと思う。